

「種山ヶ原はいま」⑧

8月17日(火)

今日も種山ヶ原の草刈りに。その途中最近気がつくのは「リス」の行動だ。チョロチョロ道を横切る。胡桃の実が食べごろになったからだろう。驚いたのは、普通頬に胡桃を入れていくものと思っていたが、胡桃の実が2・3個付いた枝を切り取り、その枝を口にくわえて山の中に入って行った。実に楽しい発見だった。しかし、自動車には気をつけて欲しい。今朝、古歌葉の道路脇にオレンジ色の動物が車に轢かれたのだろう。その死骸があった。テンだ。最近、テンもよく見かけるようになった。見事なオレンジ色で、いつか写真に撮りたいとおもっていた相手だ。実に残念。

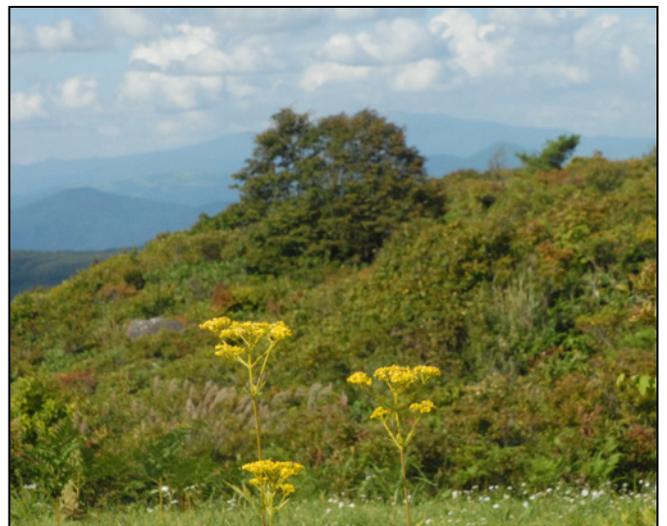
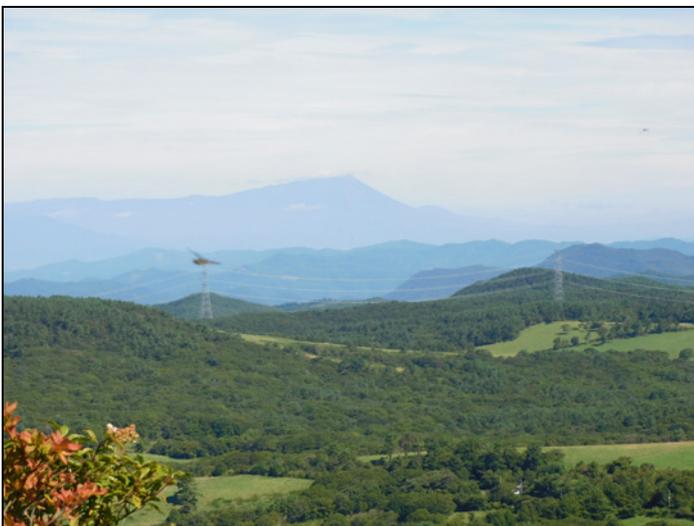
種山ヶ原は霧に覆われていた。雲の中だ。道路の草刈りを始めて間もなく、チェーチェー鳴く鳥が来た。カケスだとすぐわかった。しかし、その数がすごい。木から木へと鳴き叫びながら渡っていくカケスの群れ。霧の中を50羽以上で珍しくもあり、不気味な光景だった。もう終わったなと思うと、また、カケスの群れが続く。10数分のことだったが、初めての経験だ。カケスが日本の中で渡りを行うことを、いつか本で読んだことを思い出した。南から種山ヶ原に渡って来たのだと思う。霧の中のためか数羽はカケス独特の神楽の衣装にも似たきれいな色にはみえなかった。やがてきれいな色になり、つがいになり、巣を作り、ヒナを育てるのだろう。英語では「Jay」言うらしい。鳴き声からきけるとか。

8月19日

昨夜は「白鳥座流星群」が見える日だった。しばらくぶりのお月さんとお星さんに心躍ったが、8時過ぎ、雲の流れが速くてどの星も宇宙ステーションのように見えた。残念だが、流星を見ることはできなかった。根性がなかった。真夜中はきれいな星空だったらしい。

しばらくぶりの青空に勇んで種山ヶ原に。キャンパーもテントの前でくつろいでいた。気持ちがいいのだろう。昨夜はしばらくぶりの星空が見られて、運のいい人達だ。

物見山に登ると、胆沢平野がきれいに見えた。実に気持ちがいい。アキアカネが群れを成して飛んでいる。写真を撮ると、必ず写る。やがて里に下りて行くのだろう。秋の七草「女郎花」が物見山に鮮やかな黄色の花をつけて咲いていた。 <物見山から>

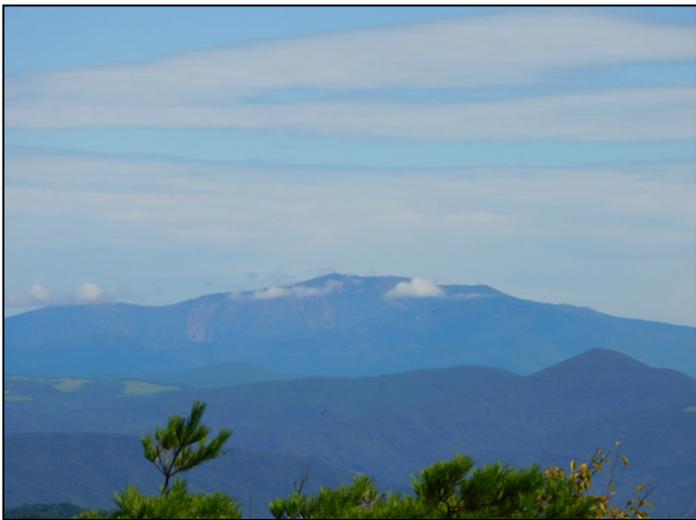




焼石岳と胆沢平野



ケルンと天使の羽



山頂から早池峰山・牧野・胆沢平野を望む



山頂脇の「物見山レーダ」



ピンクの「のあざみ」が咲いていました。



国土交通省物見山レーダ雨雪量計観測所
レーダビームを発射し、降雨雪量を観測する施設。その観測データを東北地方整備局や北上ダム統合管理事務所通じ、一般向け防災情報や河川管理や道路管理の実務に活用されているようです。

「秋の彩り」
ヤマアジサイは秋には



秋の七草「藤袴」



まっ青に朝日が融けて
この山上の野原には
濃艶な紫いろの
アイリスの花がいちめん
靴はもうぐしゃぐしゃ
図板のけいも青く流れる
ところがどうもわたくしは
みちをちがへてゐるらしい
ここには谷がある筈なのに
こんなうつくしい広っぱが
きらきら光って出てきてゐる
小鳥のプロペラが
三べんもつゞけて立った
さっきの霧のかかった尾根は
たしかに地図のこの尾根だ
溶け残ったパラフキンの霧が
底によどんでゐた、谷は、
たしかに地図のこの谷なのに
こゝでは尾根が消えてゐる
どこからか葡萄のかをりがながれてくる
あゝ栗の花
向ふの青い草地のはてに
月光いろに盛りあがる
幾百本の年経た栗の梢から
風にとかさされきれいなかげろうふになって
いくすぢもいくすぢも
こゝらを東へ通つてゐるのだ



<物見山にあった今年のアイリス>



大正6年宮沢賢治は江刺郡からの地質調査の依頼で種山ヶ原を訪れていますが、その後も生徒とよく種山ヶ原を訪れているようです。